

# 介護と研究の両立

Plasma2017インフォーマルミーティング  
同志社大学 研究開発推進機構 笹尾真実子

# 個人的な経験

- 母の場合（25年前）：2年間。家族全員で。研究活動はミニマムにする。9ヶ月間、病院で寝る。昼間は職場と家事。精神的には最も辛い時期。
- 父の場合（10年前）：4ヶ月。主として長女（孫）とヘルパーさん。
- 近況：姑（94歳。施設）の場合—介護はほとんどない。施設に入れる前に家をたたむ作業。叔母（94歳。自宅）の場合。介護保険を日一杯利用。息子がその他を補う。そのほか両親の世代は、ほとんどは施設に入っている。
- 私達の世代で最近亡くなった方：介護期間は短い。
- 制度の整備が進みつつある。

# 介護の特徴

- ▶ 介護される立場
  - 人間らしく生を終結させたい
  - 介護する人の人生を尊重したいと考えている。
- ▶ 介護する立場
  - 介護される人の気持ちを尊重する。
  - 家族全員で。男女差はほとんどない。介護する人の主体的な意識の問題。
  - 制度を良く知り、自治体、ケアマネジャー（介護支援専門員）などに相談。
- ▶ 問題は多々あるが、制度は進んできている。
  - 介護関係者の待遇。人材育成。
  - 徘徊する老人をどう守るか（制度から漏れている）

# 若干の私見

- ▶ 子供に迷惑をかけたくないという本音と、家族に守ってもらいたいという本音。
- ▶ できるだけ制度を利用する。
- ▶ 近所に住む、同居するなど負担にならない程度の見守り。
- ▶ 経済的な負担をあらかじめ確認しておく。

# 介護保険制度

- ▶ 第1号被保険者は、介護（寝たきりなどで入浴・食事や排泄などの日常生活動作への介護）や支援（家事や身支度などの日常生活での支援）が必要な時、介護保険を適用してのサービスが受けることができる。
- ▶ 介護認定審査会
- ▶ 「**要介護状態**」とは、身体上又は精神上的の障害があるために、入浴、排せつ、食事等の日常生活における基本的な動作の全部又は一部について、厚生労働省令で定める期間（原則として6ヶ月間）にわたり継続して、常時介護を要すると見込まれる状態。

平成25年（2013年）度  
給付認定者数(千人)<sup>[9]</sup>

被保険者	第1号 (65歳～)	第2号 (40～65歳)	総計
要支援1	807	13	820 (14.0%)
要支援2	782	21	802 (13.7%)
要介護1	1085	24	1110 (19.0%)
要介護2	994	32	1026 (17.6%)
要介護3	745	20	766 (13.1%)
要介護4	692	17	709 (12.1%)
要介護5	586	20	605 (10.4%)
総計	5691千人	147千人	5838千人

# 介護保険制度

日本の介護保険サービス給付（2015年）<sup>[1]</sup>

<b>居宅型</b> <b>3,889億円</b> <b>(49.5%)</b>	訪問通所 3,054億円 (38.9%)	訪問介護／入浴	816億円 (10.4%)
		訪問看護／リハ	211億円 (2.7%)
		通所介護／リハ	1,777億円 (22.7%)
		福祉用具貸与	247億円 (3.2%)
	短期入所（ショートステイ）	375億円 (5.8%)	
	その他	458億円 (4.9%)	
<b>地域密着型</b> <b>948億円</b> <b>(12.1%)</b>	小規模多機能型居宅介護	182億円 (2.3%)	
	認知症グループホーム	509億円 (6.5%)	
	地域密着型介護老人福祉施設	134億円 (1.7%)	
	その他	123億円 (1.6%)	
<b>施設型</b> <b>2,593億円</b> <b>(34.9%)</b>	介護福祉施設（特養）	1,363億円 (17.4%)	
	介護老人保健施設（老健）	1,017億円 (12.9%)	
	介護療養施設	227億円 (2.9%)	
<b>居宅介護支援（ケアマネ）</b>		408億円 (5.2%)	
<b>総額</b>		<b>7,854億円</b>	